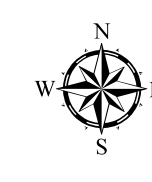


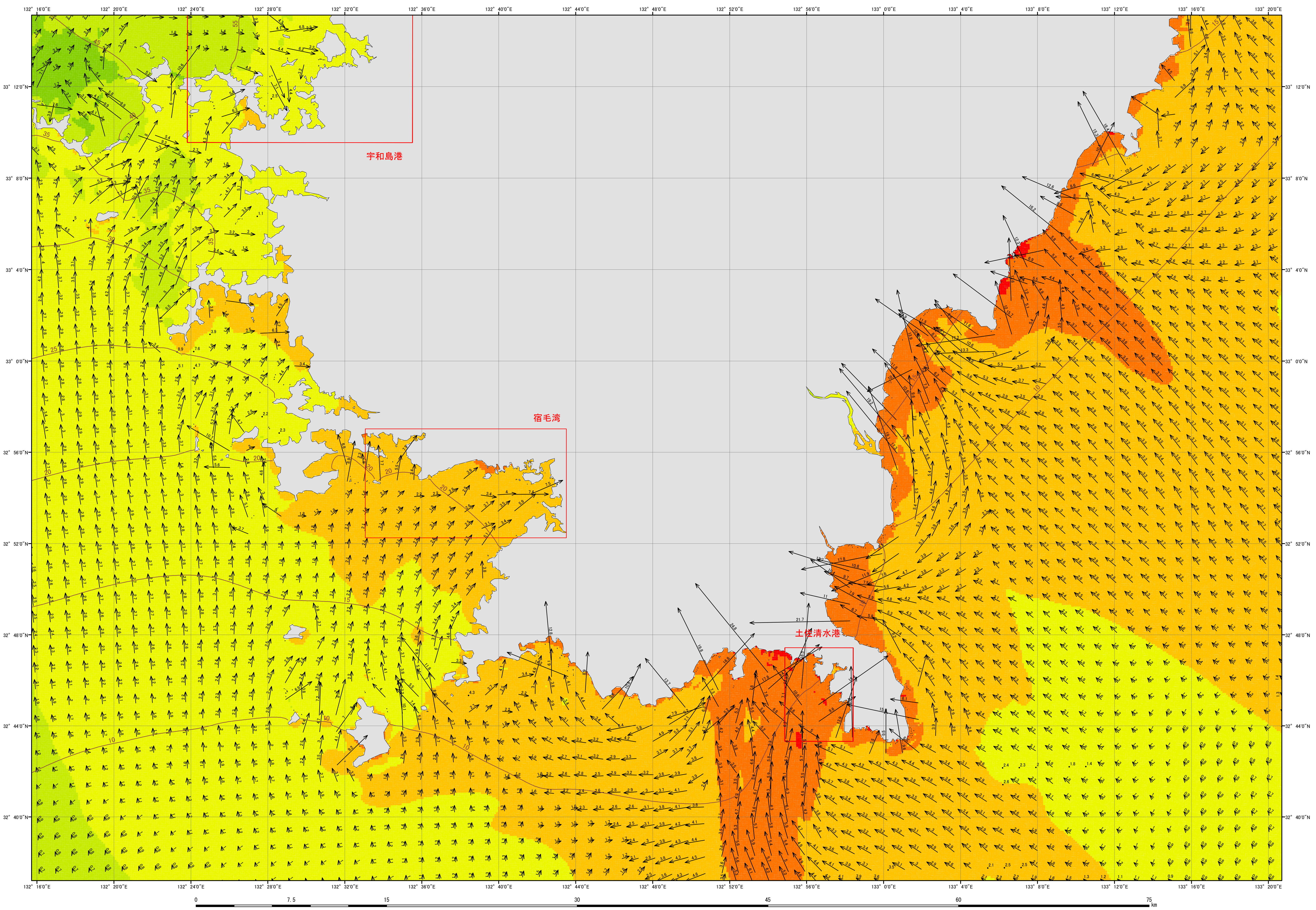
四国南岸（南西部）広域津波防災情報図（進入図）



座標系:メルカトル図法
測地系:世界測地系(WGS84)

計算条件: 最高水面(零位)
Z₀: 1.10m ~ 1.30m
隆起量: 平均 -1.16m(-2.29m ~ +2.39m)
備考: 本図のシミュレーション結果は、震源の位置、規模、細かな地形などの影響により、実際のものとは異なることがある。

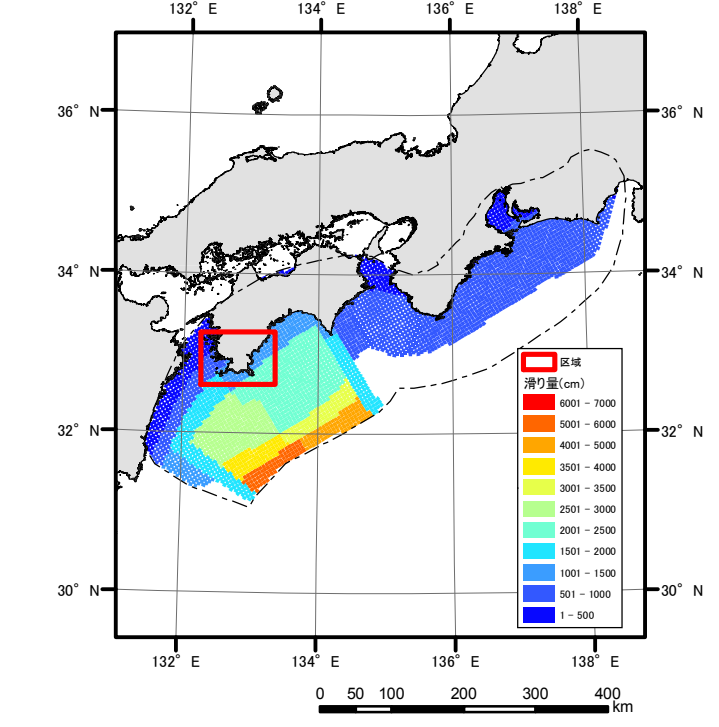
赤枠内には、さらに詳細な港湾の津波防災情報図があります。



凡例

- 水位上昇(+10cm)となる等時線(分)
- 最大水位上昇
 - 20m以上
 - 10~20m
 - 5~10m
 - 3~5m
 - 2~3m
 - 0.5~2m
 - 0.5未満
- 進入時最大流 [knot]
 - 6 knot
 - 4 knot
 - 2 knot
- 流向変化が激しく、進入、引潮等の判定が困難な海域では流速のみを表示した。
- 流向、流速の表示については、陸岸から概ね500m以上離れた地点から表示した。
- 津波の到達時間は、水位が最高水面から10cm変動した時点算出している。

断層モデル



ケース⑤「四国沖～九州沖に『大すべり域+超大すべり域』」

断層面積 S (km ²)	140,000
地震モーメント M ₀ (N·m)	6.3 × 10 ²²
平均すべり量 D (m)	10.7
モーメントマグニチュード M _w	9.1

本断層モデルは、内閣府の「南海トラフの巨大地震モデル検討会(第二次報告)」(平成24年8月29日発表)により公表されたものである。
使用した断層モデルは、内閣府より公表された11ケースの中から、土佐清水港付近において、浸水面積が最大となるモデルを選定した。

作成機関: 海上保安庁
防災情報作成年月: 平成24年6月(初版)
地図データ作成年月: 平成18年10月(初版)
改訂: 平成24年3月(改訂)

○ 本図の作成にあたっては、「津波解析支援GISシステム (ArcGIS 10 対応)」を使用した。
○ 本図の作成にあたっては、以下の資料を使用した。
・海上保安庁が保有する水深データ